

する事を以つて重要な目標とするべきである。

殊に日本の運動を以て自他が外國の追隨に依つてなされ、歴史を有する立場から、その教育なるものも、唯物論一息張にて何等か、日本國家、乃至は國民性を基礎としての教育が行はれず、否それをもしろ否定するかの傾向を多分に採つて居る。吾等にかゝる、重大なる誤謬を正して、日本の労働者たるの基礎の上に立つて其教育の根本を打ち建てなくてはならぬ。

三、前述の目標に依りて、吾等が教育方面は分れる。

一、理論の把握方面にあつては、

イ、一般的原则の把握、

ロ、過去及現在に於ける運動の批判、

ハ、特別の基礎知識（例へば産業合理化世界恐慌）の獲得、

ニ、厂的知識の獲得、

二、實際戦術知識の獲得方面に於ては尤の如きものを主要項とする

イ、組織に對する實際知識

ロ、宣傳方法よりデモの指導方法

ハ、ストライキ戰術

ニ、合法運動と非合法運動の區別

ホ、反動団体との闘争方法

ヘ、官憲の不当干渉に對抗する方法

ト、救援方法

チ、資本家側に於ける戰術

三、暴露教育は主として未組織労働者の啓蒙であるが、この方面にあつては、

イ、階級闘争原理の最も平易化を以て解説（例へば何故労働者は團結せねばならぬか等）

ロ、宗教教育國家觀念等々に對する實証的暴露

ハ、ブルジョアの改良主義的事業（特に御用組合）或は政府の改良主義的欺瞞政策の本質暴露等々を主とすべきであるが教育の対策即ち教育を受けるもの、立場からも實際上三つの方面に分れる、

イ、一般未組織労働者の階級的自覺の促進

ロ、一般組合員の階級意識の高揚